

ちば里山新聞

（第 74 号）
編集発行 NPO 法人ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148
☎ 0438-62-8895
題 字 倉島 貴浩
（ワークホーム里山の仲間たち）

千葉県由来の苗木育成プロジェクト進行中！

ちば里山センターで進めている千葉県由来の苗木育成プロジェクトにとって、春は会員の皆さんに苗木育成に取り組んでもらうための種を提供する重要な時期です。今年は、昨年一年間かけて集めた 42 樹種の種を 18 団体、30 人に提供しました。最も人気のあった樹種は断トツでクロモジでした。このほか、イロハモミジ、クヌギ、オオシマザクラ、コナラ、エノキ、ガマズミ、ケヤキ、コブシ、ヤマグリ、ヤマコウバシなども比較的に人気がありました。苗木の作り方もコンテナ容器やスリット式の鉢に挑戦する方から畑、活動する森、自宅の庭で育ててみようという方、さらに会が行うイベントで参加者に種を配って育ててみようという方まで様々でした。

配った種はよく発芽した樹種から、ほとんど発芽しなかった樹種まで様々なようです。発芽しやすい樹種、しにくい樹種、豊作でよい種が取れた樹種、不作であり種が取れなかった樹種その他、種の採取時期や種子の調製、保存が上手くできていなかった場合もあるようですが、今年も頑張っプロジェクトを進める予定です。

近年、千葉県の里山で多くの被害が生じていたナラ枯れ病もようやく沈静化に向かい、枯死木の伐採も徐々に進んでいるようです。育成した苗木を用いて、千葉県内の里山が生物多様性に富んだ森に再生されるようお手伝いすることも、里山センターの役目であると考えています。

また、このプロジェクトに千葉興業銀行が賛同し、コンテナ容器による苗木育成に今年から取り組み始めました。クヌギ、コナラ、ツバキ、ガマズミ、ウバメガシの 5 種類の種を播種したコンテナ容器を本店と千葉市、船橋市、市原市、成田市にある 5 支店内に設置しました。この取り組みは、苗木の育成には適した環境といえない室内でコンテナ容器を用いて苗木を作るという先駆的な試みです。ここで得られた知見は、森づくりを進めている企業に苗木づくりから始めることを紹介する時に役立つ。千葉興業銀行の支店では多くの市民の目に触れ、里山再生や生物多様性をアピールする機会になると考えています。

千葉興業銀行は、環境貢献活動として 2028 年 3 月までに 6,500 本の苗木植栽を目標に掲げており、育てた苗木はこの目標達成に使われる予定です。



コンテナ容器とスリット入鉢で育成する苗木（根が容器底面から外に伸張するまで、土に埋めて水やりを省略している）



庭に直播きして育成する苗



千葉興業銀行支店で育成
（千葉興業銀行提供）



千葉興業銀行本店で育成
（千葉興業銀行提供）

オープンフォレスト in 松戸 vol.13

ベビーカーは森に入れますか？

松戸市では、5月10日(土)11日(日)、17日(土)、18日(日)の4日間、市内18カ所の森を市民に開放するオープンフォレストを行いました。主催は松戸里やま応援団、オープンフォレスト実行委員会と松戸市。後援は松戸みどりと花の基金、公益財団法人山階鳥類研究所。

5月10日(土)、17日(土)は雨天で、それぞれの森で中止の決定をし、森の入り口に中止の看板を貼り出したものの、広報まつどやチラシなどで「駅から森へご案内」をお知らせしたこともあり、心配になり駅の改札口に行ってみると、それらしき人たち2組が待っていたようです。「雨の中ようこそ」と言って、森へご案内し、話を聞くと、「この日しか空いていなかった」と…。森の仲間で、「こんなに熱心な人がいてうれしい」と喜んだとのこと。

5月といえば初夏の気候。新芽が芽吹き、青葉とのコントラストが目立ち、エゴノキ、イボタノキ、カマツカ、などの木本類が開花し、地表近くでは草本も開花し、そこはかとなく香りが引き立つのもこの時期です。そうした着飾った森を楽しめる、この時期の森が一番美しいととらえる人も多いようです。

この森を楽しむイベントがオープンフォレストです。千葉県は里山条例で、平成15年の5月18日を「里山の日」と定めたこともあって、松戸市では毎年この日を挟んでオープンフォレストを開き、多くの市民の皆さんと里山の魅力を楽しんできました。

そもそも松戸市内でオープンフォレストを開こうという、その発想がどこから出て来たのか、2003年に始まった里やまボランティア入門講座の修了生がハケ崎の森で活動を始め、次の年には第2回の入門講座が開かれ、修了生が囲いやまの森に入り、その翌年には三吉の森と続いて森の活動が始まりました。2010年には松戸里やま応援団の8つの森の活動がトータルで1000回を超えたことを記念してオープンガーデンの森版としてオープンフォレストを開いてみようと思われ、今年で13回目を迎えました。2011年は東日本大震災があり、第1回のオープンフォレストは2012年に開催しました。

チラシ



松戸市内18ヶ所の森



都市に残された貴重な森を未来の子どもたちに引き継ぐため、良好な環境として残すこと。そのため、幼児から小学生、そして大人、高齢世代まで来てもらい、多くの皆さんに森を楽しんでもらうこと。これを大きな目標に掲げています。

森では、森探検もかねてスタンプラリー、フィールドビンゴゲーム、森から集めた材料、木の実を使ったオーナメントづくり、枝を利用した小さなオブジェ、どんぐりゴマ、竹ブンブン、竹トンボ、ウグイス笛、竹ポックリ、竹馬、竹楽器など、大ブランコ、スラックライン、ハンモックで遊ぶ姿が目立ちました。

玩具を作るには細工が必要で、ノコギリで竹を切る作業を初体験し、なかには「ノコギリは挽いたことがない」というお父さん、お母さんがチャレンジする姿も見られました。



小さな手もノコギリを使う

今年の傾向として、特筆すべきは「ベビーカーで森に入れますか？」という問い合わせが続けて2件あったことです。戸惑いましたが、昨年、車いすの方が森に来て、音楽会を楽しんでいった経験があったこと、比較的平坦な森があることなど紹介し、でこぼこした道があること。傾斜があって階段があることなどを伝え納得してもらい、「オーケー」と伝えました。その後、オリンポスの山から「ベビーカーのお客さんが何組も来ましたよ」と報告がありました。加えて、ポップアップテントを立て、シートを敷いて小さなお友達が休んでいる光景もありました。囲いやまの森では幼児を乗せる電動自転車が所狭しと何台も並び、小学生までのお子さんたちが大勢集まって遊べるのが分かったらしく、このようなゆったりした空



手作り遊具で遊ぶ

間がふさわしいのかもしれないと再認識しました。

野うさぎの森では集まった子どもたちとオリジナルの歌「野うさぎの森」を合唱、紙芝居に耳を傾け、大ブランコに乗り、バトミントンコートでは子どもたちに交じってお父さん、お母さんが交じってバトミントンを楽しんでいます。

竹馬に乗って遊び始めた小学生は何度もチャレンジしていましたが、竹を前に倒して支えてあげるだけで竹馬の騎手に早変わりしました。付き添いのお父さんに聞いたところ、「うちではゲームばかりで、こんな風に外で遊ぶこともさせたい」と語っていたのが印象的でした。



抱っこでも森を楽しめる

~~~~ちば SDGs パートナー2386 号~~~~

ちば里山センターでは、里山整備を通じて環境問題や、地域の課題、子どもの教育に取り組んでいる団体を支援しながら SDGs で県民に親しまれる豊かな森づくりに取り組んでいます。



ちば SDGs

## 里山じまん ⑳

## NPO 法人亀成川を愛する会

台地と谷津からなる豊かな生態系を誇る北総の印西市において、亀成川とその流域の生物多様性を守ろうと、2010 年に発足した団体です。

なかでも、別所谷津公園の水辺 10ha は、谷津の水田だった池と湿地、その上の台地の平地林、谷津と台地を結ぶ斜面林からなる、千葉ニュータウンの中にわずかに残され、里山へと



集めた落ち葉はあったかくお風呂みたい



続く貴重な場所です。

台地と斜面林の水質浄化機能と保水機能を確保し、水辺の生きものを守るため、雑木林の手入れは欠かせません。農業の営みとして手入れされてきていた雑木林がニュータウン区域になったあとは、シノダケがびっしり生えてシラカシが育ち、暗い森になっていました。里山センターの御助力による森林山村多面



森に生まれたフクロウたち

的機能発揮交付金を契機として、雑木林の手入れに本腰を入れています。下草を刈ると、林床の花々が美しい林の復活です。

ニュータウンの皆さんにも雑木林の楽しさを知ってもらおうと、保全体験型イベントを実施しています。下草刈の準備のための落ち枝拾い、落ち葉かきなど、子どもたちは一生懸命働いています。大人が竹切に夢中の間に、落ち枝のピオネストができあがり、落ち葉のプールで遊びます。

この冬は、シノダケの間にマダケが繁茂してきて、競いあうように高く茂っていたのを、切り開きましたら、ヤマザクラやクヌギなどが現れて、昔の里山の風景が見えてきました。こんな達成感を味わえる雑木林の手入れ、みんなに経験してほしいなと心から祈っています。

NPO 法人 亀成川を愛する会 小山 尚子

~~~~~ つれづれごと ~~~~~

ちば里山新聞を年間6回発行するのにも、だんだん慣れてきたのか最近は余裕も感じられてきました◆6月12日にはちば里山センターの総会が開催されますので、新しい話題も生まれてくるかと思います。(YA)

里山の風にゆられて ㉑



センダン<梅檀>センダン科センダン属

センダンは薬用植物の一つとしても知られ、果実はしもやけ、樹皮は虫下し、葉は虫除けにするなど、薬用に重宝される。梅檀は双葉より芳しいとする梅檀は本来の中国名で、日本でいう白檀のことです。

写真・文 赤松義雄 R7.5.12 ちば里山センター

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ケ浦市長浦拓 2 号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日 9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>